



西郷さいこう 隆盛たかもり

うちむらかんぞう

内村鑑三が明治二十七年に英文で出版した「代表的日本人」は、世界の識者しきしやに愛読された名著です。内村はこの本で、西郷のことを「日本の維新は西郷の維新であつた」「明治維新の出発スタート合図者であり、方向指示者ディレクターであつた」「日本人のうちにて最も幅広き、最も進歩的な人」と書いています。

明治維新のさい、官軍に西郷がおらず、幕府方に山岡鉄舟と勝海舟かつかいしゅうがいなかつたら、江戸城明け渡しへいおんが、平穩に行なわれることはむずかしく、江戸八百八町火の海となつたでしょう。

また官軍にイギリス、幕府にフランスがついて、内乱になればどちらが勝つても負けても、わが国はかれらの植民地になつてしまふところでした。それを救つたのは、西郷と山岡・勝の信頼と協力のおかげだつたといえます。

東京の上野公園になぜ西郷の銅像があるのか。江戸の町を戦火から守ってくれた西郷への、庶民の親愛の情がそうさせたのです。

西郷は鹿児島の人なのに、遠く離れた山形県酒田さかたし市に南洲神社なんしゅうじんじやがあります。南洲とは隆盛の号です。鹿児島にはもちろん南洲神社がありますが、酒田とはなんの関係があるのでしょうか。

維新戦争で、明治元年の秋、山形の庄内藩しょうないはんが官軍に降伏こうふくします。藩主酒井忠篤さかいただすみは十六歳の少年でしたが、西郷は降伏したこの殿さまを丁寧ていねいに処遇しよぐうして、庄内の人びとを安心させます。このためかれらは深く西郷に心服しんぷくし、のちの西南の役えきには、はるばると山形から西郷軍に参加して、戦死した人さえいるほどです。

また西郷の教えを一冊の本にまとめた「南洲翁遺訓なんしゅうおういくん」は、庄内の人たちが編集刊行し世にひろめたもので、これが西郷と酒田を結ぶ縁なのであります。

西郷の信条は「敬天愛人けいてんあいじん」（天を敬うやまい人を愛する）でした。相手がだれであろうと、平等に、温あたかく接する情と愛の人でした。その大人格だいじんかくはどうしてできあがつ

たのか。天性に加え、三つの大きな理由が考えられます。

第一は、島津齊彬しまづなりあきらという名君の教育指導であり、藤田東湖ふじたとうこや橋本左内はしもとさないなどの交友です。つまり、良い師良い友を得たことです。

第二は、二度にわたる島流しによつて、辛苦しんくをなめ、しかもその期間を生かして学問に励んだことであります。

第三は、勤皇僧きんのうそうの月照げつしょうを助けようとして助けられず、一緒に死ぬほかはないと薩摩の海に身を投げ、月照は死に自分だけ蘇生そせいした悲痛な体験です。

日本人ならだれでもが知っている西郷さんという大人物はこのようにして磨きあげられていったと、私は見ています。

坂本龍馬さかもとりょうまが、師匠ししやうの勝海舟から西郷と初対面の印象を聞かれて「お寺の鐘かねのようなもので、大きくつけば大きく鳴る。こちらのつき方が小さいと小さくしか鳴らない。はかり知れない大きさの男です」と答えた話は有名です。

いわゆる征韓論せいかんろん（韓国を武力で征服する）はもちろん西郷の真意ではなく、自

分を非武装の使節として派遣してほしいというものでした。西郷は、迫ってくる
せいおうれつきよう 西欧列強の侵略をしんりやくを防ぐために、一日も早くかんこく韓国・しんこく清国・日本の三国が同盟を結ぶ
よう提案し、説得するつもりだったと近年の研究でわかっています。

明治十年（一八七七）五十一歳没

○ 明治維新のスターター、そしてディレクターとは、わかりやすい表現に感
心をしました。

○ 酒田市の南洲神社にお参りをした時に、西郷さんの大きな「お徳」が、こ
の地の人々に残っていると感じました。

○ 良い師、良い友が人物をつくる。大切にします。

（M生）